

ポスターセッション

第15回子ども学会議では、66件のポスターが発表された。発表はポスターセッションの時間を2つに分けて行い、発表者も他者のポスターを見に行けるように計らった。発表されたポスターは参加全理事の投票による審査が行われ、最優秀発表賞1名、優秀発表賞3名が選ばれて、大会1日目の夕刻から行われたイブニングセッションで表彰された。



【最優秀発表賞】

石川衣紀：北欧における児童虐待の実態と防止支援システムの研究
—北欧三カ国の「子どもの権利擁護センター Barnahus」の訪問調査から—

【優秀発表賞】

小椋たみ子：絵本場面における母子共同注視と子どもの言語発達
堀田由加里：デジタルメディアを用いた幼児の描画表現活動における創発的過程に関する検討
菅原ますみ：中高生のテレビに対する行動・意識の形成とその関連要因に関する横断的検討
—『青少年のメディア利用に関する全国調査』より—

第15回子ども学会議 ポスターセッション最優秀発表賞 演題

北欧における児童虐待の実態と 防止支援システムの研究

—北欧三カ国の「子どもの権利擁護センターBarnahus」の訪問調査から—

石川衣紀（長崎大学） **田部絢子**（立命館大学） **内藤千尋**（松本大学）
石井智也（日本福祉大学、東京学芸大学大学院博士課程） **能田 昂**（白梅学園大学、東京学芸大学大学院博士課程）
柴田真緒（埼玉県立所沢特別支援学校、東京学芸大学大学院修士課程） **神長涼**（横浜市立若葉台特別支援学校）
高松健太（東京学芸大学大学院修士課程） **高橋智**（東京学芸大学）

本研究では、北欧3カ国（スウェーデン・アイスランド・ノルウェー）における児童虐待の実態と児童虐待防止支援機関「子どもの権利擁護センター Barnahus」の調査検討を通して、日本において構築すべき子ども中心の児童虐待防止とケアの方向性を明らかにする。報告者らの調査チームは、2017年2月にスウェーデンのストックホルムにある「Barnahus スtockホルム」とアイスランドのレイキャビクにある「Barnahus アイスランド」、2018年3月にノルウェーのオスロにある「Barnahus オスロ」を調査訪問した。

「子どもの権利擁護センター Barnahus」とは1980年代に米国で開発された子ども中心の権利擁

護システムであり、北欧諸国では1998年にアイスランドが導入し、スウェーデンは2005年、ノルウェーは2007年に導入している。警察・ソーシャルワーカー・心理士・小児科医・児童精神科医・検察官等が所属して、子どもの保護、司法面接、医学鑑定と治療、本人および家族のケア等を一ヶ所で総合的に実行できる、日本では類似したものがないシステムである。日本ではこれまで北欧の「子どもの権利擁護センター Barnahus」についての検討は全くなされていないが、「子どもの権利擁護センター Barnahus」の取り組みは、日本の児童虐待防止システムの改善・向上において重要な視座を提供できると考える。

演題番号	筆頭発表者	タイトル
1	西山国江	保育者養成校における『保育内容・表現』のカリキュラムデザイン —表現技術の拡がりを体験する取り組み—
2	森谷路子	運動遊び啓発資料が保護者と子どもに与える効果 —2ヶ月の実践前後の保護者調査より—
3	田崎知恵子	「子どもにとっての最善の利益」を考える授業への取り組み
4	田中卓也	「郷土かるた」における担当教師の小学校児童への指導とその教育的意義
★ 5	小椋たみ子	絵本場面における母子共同注視と子どもの言語発達
6	鳥海弘子	医療的ケア児（経管栄養）の保育所・こども園・幼稚園入所状況の現状
7	漁田俊子	保育士の資質向上と研修2 —キャリアパスを見据えた3歳未満児担当保育者の勉強不足感—
8	関 容子	保育料無償化に対する保護者の意識
9	阿部佑香	幼児の片づけ行動における行動誘引手法の検証 —はたらきかけの違いによる効果の比較—
10	三島悠希	子ども一人ひとりに焦点を当てた本の好みに関するインタビュー調査手法の提案
11	内田早紀子	日常的な活動を題材とした小学生向けプログラミング的思考育成ツールの開発
12	野口 聡	プログラミング的思考の基礎をつくる保育方法を評価するルーブリックの分別力の分析
13	内海緒香	反省的实践家としての保育者の対話と省察 —認定こども園園内研究会の記録から—
14	鈴木寛康	紙ひこうき遊びにおける潜在的活動量の検討
15	西尾 新	小学校教師の児童理解を促す要因 —学級規模、時間のゆとり、指導法との関連から—
16	戸次佳子	子どもの協調運動の発達と行動特性およびQOLとの関連 —小学生の縦断的調査—
17	野田智洋	幼児におけるスキップ動作の段階的指導法 —サイドステップからの導入—
18	谷川友美	科目「子どもの保健Ⅱ」における健康教育を目的にした教材作成の実践報告
19	石沢順子	年少の幼児における日常生活活動量の経年変化 —2歳～3歳児クラスの追跡測定から—
20	松崎真実	保育士養成校で昆虫飼育を行う課題と心情変化検討 —昆虫飼育前後の質問紙調査の分析から—
21	西岡直実	子どもにとっての物語キャラクターの役割 —調査研究とワークショップからの考察—
22	社会福祉法人あづみの森	無発語だった子への音楽療法士と言語聴覚士による共同アプローチ
23	鈴木国威	ベイリー乳幼児発達検査の参加時に双生児が使用した手の動作や左右差
24	孫 怡	中国都市部における祖父母の共同育児が親子のQOLに及ぼす影響
25	橋川恵介	幼児を対象とした野球・ソフトボールの普及・振興事業に関する研究
26	中村 恵	社会全体で育む情動的スキル —フィンランドの幼児教育システムからの示唆—
27	山下愛実	幼稚園における幼児の環境へのアプローチの変化から見いだされる遊び心をもった関わり
28	内藤千尋	発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援の課題 —少年院在院少年の面接法調査を通して—
29	黄 琬茜	台湾における子どもの言語教育にみる外国籍配偶者の母語に関する過去と現在の変化
30	東方珠美	入園直後の慣らし保育における保護者支援 —連絡帳に着目して—
31	江口奈央	幼児はどうやって遊び（玩具）を選択するのか
32	佐藤朝美	アナログ活動へといざなう参加型デジタル絵本の開発
33	瀬尾知子	学校・家庭・地域が連携して育む子どもの食育 —生活科・総合的な学習の時間、学校給食を活用した実践—
34	石井智也	スウェーデンの「補助器具センター」と障害者の生活支援に関する調査研究
☆ 35	石川衣紀	北欧における児童虐待の実態と防止支援システムの研究 —北欧3カ国の「子どもの権利擁護センター Barnahus」の訪問調査から—
36	佐藤優香	ワークショップデザインの試行と修正 —状況と対話するプレイフルアプローチの試み—
37	杉本貴代	遊び場に対する4～5歳児の価値づけに影響を及ぼす諸要因の検討
38	油川さゆり	習い事が幼児の問題行動の抑制に与える影響 —8か月の縦断研究から—
39	能田 昂	「災害と子ども被災・救済」の特別教育史研究 —1891（明治24）年濃尾震災における被災孤児の救済実態—
40	稲田公子	就学を見据えた自由遊びの見直し—平積木を用いた保育所保育実践—
41	仁木和久	“Active Learning on Brain” プロジェクト —「アクティブ脳」を知り・活かす 脳認知科学プロジェクトの発足—
42	仁木和久	情報処理の柔軟性と学習発達を支える脳アーキテクチャーの多次元性
43	梅田真樹	東大阪市の道路上の土や砂の危険性
44	廣瀬翔平	遊び中に幼児はどんな話題で会話をするのか —泥団子作り場面の観察による検討—

演題番号	筆頭発表者	タイトル
45	鹿内あずさ	地域の大学における小学生を対象とした親子参加型体験学習（看護師体験）の効果
★ 46	堀田由加里	デジタルメディアを用いた幼児の描画表現活動における創発的過程に関する検討
47	平林今日子	カザフスタン・セミパラチンスク核実験場近郊に住む子どもたち—核実験に対する認識について—
48	織茂稔侑	園内見守りシステムを用いた園児の健康管理および保育士作業支援アプリの開発
49	原 香織	みんなを笑顔にするプログラミング的思考の育成—小学校におけるプログラミング教育—
50	李 月	図形を用いた外国人児童と日本人児童の相互理解促進に関する実証的研究
51	酒井 厚	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（17）—幼児期の対人関係と問題行動—
52	眞榮城和美	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（18）—就学移行期の子どものQOL—
53	後藤由佳	保育者養成校における保育実践力を高めるためのプログラム —キッズフェスタへの取り組みを通して—
54	伊達偉志	深層学習を用いた子どもの行動識別
55	田村綾菜	学習に困難のある子どもをもつ保護者の学習支援に対する理解と子どもの適応について
56	岡保由美子	小児看護学の授業で活用する絵本の紹介
57	松山由美子	子どもの学びと保育者の援助を支援するアプリ「ASCA」の開発
58	菅原拓朗	子どもの英語習得を促す母子インタラクション理解のためのマルチモーダル行動観察システムの開発
59	加藤典子	高学年児のQOLと地域での活動の関連 —『小学生版QOL尺度』の分析を通して—
60	朝倉民枝	お話をつくり語る楽しみを子どもたちに —子どもが語る物語世界—
61	姜 娜	祖父母による育児参加と子どもへの関わりについてのインタビュー調査
62	笠見康大	地域の大学における小学生を対象とした親子参加型体験学習（ものづくり）の効果
63	小川淳子	社会情動的スキルを育むためのマルチ・ドメインアプローチ —遊び、メディア、インクルージョン—
64	劉 愛萍	子どもの問題にかかわる学際的な議論をファシリテートするハブとしてのチャイルド・リサーチ・ネットの貢献
65	竹下秀子	外国人集住地域の小学校外国人児童の言語習得の実情 —『話す』—
★ 66	菅原ますみ	中高生のテレビに対する行動・意識の形成とその関連要因に関する横断的検討 —『青少年のメディア利用に関する全国調査』より—

☆マークは最優秀発表賞 ★マークは優秀発表賞